

市長所信表明

平成21年12月

(はじめに)

改選後初めての定例会である12月定例会の開会に当たり所信を申し述べる機会を与えていただきました議員各位に感謝を申し上げながら、市政運営についての所信と決意の一端を申し述べさせていただきます。

まずは、議会改革の一環として定数を減らしての大変厳しい選挙戦を戦い抜かれ、見事当選を果たされました議員各位に対し心からお祝いを申し上げます。

私自身も、同時に執行された市長選挙で、多くの市民皆様のご支援のお陰をもちまして、当選の栄に浴することができましたこと、誠に光栄に思っています。また同時に、市民皆様の負託に応え、市勢発展のために全力を尽くす決意を新たにしているところであります。

さて、今更申し上げるまでもなく、本市を取り巻く諸情勢は引き続き厳しく、特に、地域経済の活性化と雇用の確保、そして、少子高齢化への対応などは極めて重要かつ緊急に対応しなければならない課題となっています。

しかし、これらの課題解決がいかに困難なものであっても、本市はこれらの課題に的確に対応できる力を持っていることをも決して忘れてはいけません。それは、合併後4年間で築き上げてきた確かな行財政基盤を有すること、新市発展のために取り組んできた諸事業の効果が発現しつつあること、そして、酒田を愛し、酒田の発展のために懸命に努力を重ねる市民皆様がいることであります。

私は、このような基本認識に立ちながら、次の4年間、市民と市議会皆様のご理解ご協力をいただき、「合併の総仕上げ」、「心豊かに暮らし続けられる街づくり」を強力に推進していきたいと考えております。

その際、大切にしていきたいことは、「活力とぬくもりにあふれた市政」ということです。「活力」とは、市民皆様の夢、思い、力を大切にしながら本市経済や市民活動をさらに活発にしていくことであり、「ぬくもり」とは、厳しい経済社会情勢の中、本当に苦勞されている市民の皆様に対して頼りになる市役所として最大限のバックアップをしていくということでもあります。

国・地方とも厳しい財政状況にある中、これらの政策を推進していくことには様々な困難が伴うことが想定されますが、酒田の力を信じ、市民皆様と力を合わせて懸命に努力を重ねていけば、必ずや愛するふるさと酒田の未来が切り開けるはずと確信をしているところであります。

それでは、以下、重点的に取り組むべき政策について、具体的に申し述べさ

せていただきます。

1. 合併の総仕上げ

その第1は「合併の総仕上げ」であります。

先に述べさせていただいたとおり、合併直後の4年間で、新市の基礎をしっかりと固めることができました。したがって、これからの4年間は、この固めた基礎の上に、本市の未来像を描き、それを形にしていく期間と位置付けることができます。

特に、この4年は合併した自治体にのみ認められる財政的に極めて有利な合併特例債が活用できる残り6年のうちの4年となりますので、このことをしっかりと踏まえた上で、この合併特例債を最大限に活用しながら、現下の重要課題である学校校舎の耐震化、酒田駅及びその周辺の開発、市庁舎の耐震改築などを強力に推進するとともに、将来的な地域発展につながる事業、旧1市3町それぞれの地域資源を最大限に活用するための各種事業を積極的に展開していきます。また、合併の目的の一つである行財政改革についても、引き続き計画的に進め、市民皆様に改革の効果を還元していきます。

2. 心豊かに暮らし続けられる街づくり

その第2は「心豊かに暮らし続けられる街づくり」であります。

私は、これからの時代について、経済万能の時代から心の豊かさを大切にす時代が変わっていかねばならないと考えており、自然や歴史・文化に恵まれ、農商工のバランスのとれた産業構造を有するこの地域は、このような時代の流れを先取りできる地域だと考えています。

そして「心豊かに暮らす」ための要素として、一定の経済的な豊かさを享受できること、心身ともに健康であること、子供からお年寄りまで市民の笑顔にあふれている街であることが重要であると考えていることから、今後のまちづくりについて、「地域経済の再生」、「健康対策の強化」、「子育て環境と市民活動の充実」を大きな柱として政策を展開していく考えであります。

(1) 地域経済の再生

まず、現下の我が国経済情勢の中で、「地域経済の再生」を図っていくためには、単に全国的な景気回復を待つだけでなく、今、本市でできることを着実に実行していく必要があります。

このため、本市の得意分野である農林水産業、酒田港、観光などによって地域経済を強力に牽引すると同時に、国・県事業の積極的な受け入れと合併特例債を活用した公共事業を計画的・積極的に展開することで地域経済を刺激し続け、この地域の経済再生に向かっていきます。

① 農林水産業の活性化－国全体の食糧供給基地へ－

このうち、農林水産業については、国全体の食糧自給率の低さ、食の安全安心に対する消費者ニーズの高まりという現状を踏まえ、農業生産基盤の充実が進んでいる本市が我が国の食糧供給基地としての役割を果たしていけるよう、農林水産業施策の一層の充実を図ります。

具体的には、JA庄内みどりとJA袖浦による「酒田農業元気協定」、集落営農体制整備率の高さなどを活用し、引き続き、「米プラスアルファー」で農業所得の向上を目指していきます。

農林水産業の疲弊は農村の衰退につながり、農村の衰退は本市全体の疲弊どころか地方全体の疲弊につながります。今やらなくてはという思いで、本市農業における「米プラスアルファー」の動きをさらに加速していきます。

② 酒田港の活用促進－東北の日本海側の玄関へ－

また、酒田港については、日本海対岸諸国の経済発展、東北地方への自動車産業進出などの動きを踏まえ、酒田港が東北地方日本海側の玄関口としての役割を果たせるよう、港湾利用と施設整備の一層の促進を図ります。

具体的には、県が進める物流戦略に基づき国際物流拠点港としての機能を高めるとともに、物流関係者・県・市が一体となって酒田港の認知度を高め、一層の利用拡大を図ります。また、酒田港の特色であり、また、好調でもあるリサイクルポート事業について、広域的なりサイクルネットワークの構築などにより、さらなる機能強化と企業集積を図ります。

③ 商工業振興の方向性－ものづくり都市と観光都市へ－

商工業については、極めて厳しい競争状態の中、本地域の特色をいかに強化し、アピールしていくかが大切であり、これを一業種一企業の問題としてとらえるのではなく、地域あげての取り組みが重要との認識が必要になっています。このため、引き続き、ものづくりを核とした産業振興と観光振興による地域のイメージアップとアピール度を上げる努力を重ねていきます。

具体的には、優れた技術・多様な取引機会を地域全体で共有・創造できるよう、商工会議所とともに、クラスター型技術者連携の場の創造、各種産業展などへの参加促進、特色ある技術・製品開発などへの支援拡充、ものづくり企業の誘致促進を図ります。また、観光客増加傾向にある今を活かし、地域のイメージアップと関連産業への経済波及効果の拡大を目指しながら、農商工との連携など本市観光の総合産業化を目指します。

④ その他

さらに、先に述べたとおり、地域経済を刺激し続けるためにも、市の公共事業の積極的な展開を図るほか、国・県の公共事業を積極的に導入していきます。特に、日本海沿岸東北自動車道、新庄酒田地域高規格道路の整備促進、羽越本線の高速化や山形新幹線の庄内延伸などは、公共事業としての景気刺激効果のみならず、物流の活性化による地域経済への貢献という側面を強く有することから、これらの事業促進については積極的に対応していきます。

(2) 健康対策の強化

次なる政策の柱は「健康対策の強化」です。

今更申し上げるまでもなく、健康は幸せの原点であり、これを守ることは市の重要な使命です。

このため、市民皆様のご理解ご協力をいただきながら、児童、高齢者、障がい児・者などあらゆる分野における健康福祉施策を充実し、バランス良く展開するほか、当面、以下の2点について重点的に取り組んでいきます。

① がん検診受診率の向上ー受診率を県内トップクラスにー

まずは、がん検診受診率を県内トップクラスにしていきます。

がんは早期発見・治療により治る病気になりつつあるにもかかわらず、本市では、がんによる死亡率が高いという現状にあります。

このため、節目年齢がん検診の無料化などによる検診機会の拡充、各種研修や広報の充実による正しい知識の普及により、がん死亡率の大幅低減を図ります。

② 地域医療システムの充実ー一貫した地域医療体制の整備ー

次に、在宅から病院・施設まで、そして、急性期から回復・療養期まで、一

貫した地域医療システムを構築・充実することで、市民の健康をしっかりと守っていきます。

具体的には、県立病院と市立病院との統合メリットを活かし、現酒田医療センターを北庄内地域に不足する回復・リハビリテーション期の病院として位置付け、さらに、病診連携や老人福祉施設などとの連携強化を図ります。また、看護・福祉人材の確保・育成のため、酒田看護専門学校を市立として設置し、その機能を維持・拡充していきます。

(3) 子育て環境と市民活動の充実

政策の柱の3番目は「子育て環境と市民活動の充実」です。

経済的に豊かになり、健康対策が強化されたとしても、次代を担う子供達が心身ともに健康に育ち、また、市民一人ひとりが充実して日々の生活を送れるような環境がなくては、心豊かに住み続けられるまちということはできません。

このため、子育て環境の充実と市民活動の活発化を大切な政策として位置付けていきます。

① 子育て・教育環境の充実—子供の笑顔を大切に—

まずは、「子育て・教育環境の充実」です。

子育て支援と教育環境の充実については、行政や学校に加え、地域や家庭などの協力が大切であり、また、子育て世代のニーズも多様であることから、多面的な対策が必要であることはいまでもありません。

このため、子育て支援に係る施策については、子育て世代を中心に市民皆様の意見をしっかりとお聴きしながら、男女の出会いの場の創造、妊婦・乳幼児医療などへの支援拡充、地域での子育て支援をはじめ相談機能の充実などを多面的に展開すると同時に、新たな市民ニーズにも機動的に対応し、子供を産み育てやすい環境整備に積極的に取り組みます。また、このまちの次代を担う子供達の教育環境を一層充実するため、校舎の耐震化促進、体験学習などの特色ある学校事業の充実、スクールカウンセラーなど相談機能の強化を図ります。

② 市民活動の充実—まちの元気のため—

次に、「市民活動の充実」です。

元気なまちとは、様々な市民活動がいかに活発に行われているか、そして、市民一人ひとりがいかに心豊かに日々を過ごしているかにかかっているといっても過言ではありません。幸い、本市市民は芸術文化、スポーツなどを愛し、

各種ボランティア活動などにも積極的に取り組んでいただいています。

このような市民活動を一層活発にするため、陸上競技場などの各種施設の改修・充実、各種行事・イベントなどの積極的招致、指導者の育成支援などを拡充し、市民一人ひとりが芸術文化、スポーツ、ボランティアなどに、できる範囲で積極的に取り組む環境の整備を図ります。また、市民活動の原点ともいべき自治会やコミュニティ振興会については、地域や市民が主体となる市政、きめ細かな市政を展開する上で、その活性化は大変大切な課題であるとの認識の下、これらの団体とのさらなる連携や支援の強化を図ります。

(さいごに)

以上、述べさせていただきましたとおり、時代は大きな転換期にあり、特に、この未曾有の経済危機から我が国が立ち直るためには、外需主導型経済から内需主導型の経済システムへの転換が求められているといわれています。

このような大きな時代の転換期にある今だからこそ、農業という基幹産業と酒田港という大きな財産を持ち、よき日本の自然・文物・人情が色濃く残っているこのまちに期待される役割には必ず大きいものがあるはずで、その役割を十全に果たしていくことが、このまちの発展につながっていくはずです。そして、今後の4年がこの期待される役割を十分に果たせるか否かを左右する大変大切な期間であるといっても過言ではないのです。

古くから商人自治の湊町として栄えた酒田は、自由闊達な雰囲気大切に、人々が様々な努力を重ねながら幾多の困難を克服しました。そして、そんな街であることを市民が大きな誇りにしてきました。いうまでもなく、この伝統は現在にも脈々と引き継がれているのです。

したがって、今こそ、私たち自身が酒田の可能性を信じ、自由闊達な議論を重ね、街の良さを引き出す取り組みに対しては市民こそ支援する、そして、こんな酒田の市民であることを誇りに思うまちづくりに邁進していかなければなりません。

私自身、このような思いで今後4年間、市民皆様の思いを大切に、市民皆様の夢、喜び、感動、苦しさなどを共有できる市政を目指し、全力で市政運営に取り組んで参ります。

結びに、議員各位と市民皆様のご理解ご協力を賜りますよう重ねてお願いを申し上げ、今後4年間の市政運営に対する所信とさせていただきます。

(以上)